

第2回赤磐市まちづくり審議会会議録

日時：令和6年10月1日（火）午後1時30分開会 午後3時15分閉会

場所：赤磐市役所 3階第1会議室

1 開会

事務局： 定刻がまいりましたので、ただ今より第2回赤磐市まちづくり審議会を開会いたします。前回、会議の日程を9月にご案内させていただいておりましたが、都合によりまして日程を変更させていただきましたこととお詫び申し上げます。皆様方にはお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議でございますが、ご出席の委員は12名でございます。中原委員、藤井委員につきましては都合によりご欠席とのご連絡をいただいております。したがって、委員総数14名の過半数以上の出席をいただいておりますので、赤磐市まちづくり審議会条例第6条第2項の規定によりまして、会議は成立しております。それでは開会にあたりまして友實市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長挨拶

皆様、こんにちは。赤磐市長の友實でございます。

本日は委員の皆様方においては大変ご多忙の中、赤磐市の第2回まちづくり審議会においでいただき、議論をいただくということでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回は第2回ということで、前回色々なご意見をいただいて、それを振り返りながら、ご意見に対する資料や回答が示しできればと思っております。

今新しい話題として、9月のはじめに私が議会の質問に答える形で、ずいぶん新聞記事やテレビのニュース等でも出ていますが、今赤磐市が企業誘致として誘致交渉している会社が、コストコホールセールジャパンとナカシマホールディングスであるということを、発表させていただきました。まだまだ最終的な決定ということではありませんが、大きな話題となりまして、このことが実現すれば赤磐市のまちづくりも大きく変わっていくのではないかと思います。赤磐市のまちづくりを審議するなかでも、このことを意識しながら語っていくことも大事ではないかと思います。そういったことを念頭に置いていただきながら、企業の誘致、若者の定住といったところも意識して議論を進めていただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 委員の紹介（前回欠席の委員）

略

4 議事

事務局： これから議事に入りたいと思います。赤磐市まちづくり審議会会議運営規定第3条の規定に基づきまして、これよりの議事進行につきましては、阿部会長をお願いいたします。

会 長： 前回の審議会で会長に指名されました環太平洋大学の阿部でございます。本日もよろしくお願ひいたします。本日の議事からが実質的な議論になるかと思ひますので、活発な議論、ご遠慮ない意見をいただきますようよろしくお願ひいたします。それでは議事次第に従って進めさせていただきます。まずは会議録署名人を指名したいと思ひます。今回は戸田委員と水谷委員にお願ひしたいと思ひます。それでは委員の皆様へ本日ご審議いただきたい内容につきまして共有の時間を持ちたいと思ひます。1つ目の議題はグループにて協議をお願ひいたします。非常に多くの図表が用意されております。資料につきましてはこの後事務局から説明していただく時間を設けたいと思ひます。委員の皆様にはそれぞれのご関心の事項や専門分野の立場に立ってのご意見などをグループの中で共有いただけたらと考えております。前回同様にお話しいただいた内容はそれぞれのグループから報告していただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。まずは事務局からお願ひいたします。

(1) グループ討議（第1回まちづくり審議会での意見、8年後の人口を最大化するために）

事務局： 事務局より資料No.2、No.3について説明。（以下、略）

会 長： ありがとうございます。たくさんご説明いただいてなかなか頭に入らない部分もあるかと思ひますので、ご質問の時間を設けたいと思ひますが、いかがでしょうか。

委 員： 議論のテーマが3点あったかと思ひますが、もう一度お願ひできますか。

事務局： 1つは地区別の人口推移がそれぞれの地域に与える影響について、2つ目が希望する子どもの数を持たない要因、3つ目に就業者が市外へ流出、お昼に市外へ働きに行っている状況への評価につきまして、委員の皆様のご関心や専門分野に基づいたところでご意見をいただけたらと思ひます。

委 員： ありがとうございます。

会 長： それでは、10分程度それぞれのグループでただ今ご説明いただいた内容についてお話しいただき、ご質問いただくということで進めたいと思ひます。

委 員：（グループ内議論）

会 長： それでは、各テーブルでどういうお話が出たかご紹介いただきたいと思ひます。グループで代表を決めて発表をお願ひできますか。

委 員： こちらのグループでは事務局から説明いただいた3つのポイントの中でも、2番について重点的に話をしましたが、順にお話ししますと、地区の人口の話がありましたが、山陽団地と桜が丘の同じ旧山陽町内の住宅地で比較した場合にとっても格差があるという話になりました。人口的なもの、高齢化率についての話の中で、資料上では同じ旧山陽町内でも差があつて、あまり今までなかった視点かと思うのですが、用途地域とか地区計画による厳しさの差という部分で限られた使い方しかできないということが、盛り上がりを抑制してしまっているところがあるのかなという話が出ました。

2つ目に、産みたい人数と産まれる人数に差があるという話なのですが、実態としてはおそらく待機児童は保育園に関してはあまりないのではないかというお話があって、次の問題として学童の受け入れ先が少ない、さらには選択肢が無い、入れたとしても1つか2つしか選べないところに将来的に問題が発生してくるのではという話がありました。子どもが産めない、最初希望していた人数から減ってしまう、ということは地域の課題だけではなく、個人の家庭の事情もあり、ライフスタイルが変わっていることや価値観が変わってきていますので、時代によるものもあるのかと思います。経済的支援とか子育て支援制度一般は子どもを産む立場としてはありがたいものではあるのですが、制度だけで解決できないものもあって、近所に同世代の子どもを育てているお母さん、お父さんが居るのかどうかや、ここに住んで子育てしたいと思える魅力が地域にあるかどうかというところも、居住地を選ぶ上では影響が大きいのではないかという話がありました。

最後に、就業者・労働者が市外に流出することに対してどういった評価が下せるかということについて、近隣地域でも特に岡山市の東の方は比較的通勤圏内だという感覚があり、グループの中でも、ベッドタウン化することは悪くない、住民となってくればあまり重大な問題ではないのかなと思うのですが、岡山市でいうと岡山市の中心部に働きに行く人にとって交通利便性などの面であまり距離が離れてしまうと、住居ごと移ってしまうリスクがあるのではないかという話でした。

会 長： それでは、2番目のテーブルの方お願いします。

委 員： 冒頭の市長さんのご挨拶の中で企業誘致の話が出ましたことについて、私もインターチェンジの近くの集落に住んでおりますが、わがまちで高速の利便性などが、雇用を含めて好循環に繋がればいいなという話が出ました。

あと、先ほど山陽団地、旧山陽地区の話もございましたが、そこでの空き家のこともこれから視点を身につけていかなければならないということや、桜が丘のエリアでは土地の価格がどうなのかという話もありました。あと、個人的に思うのが市民アンケート結果の中でも生涯学習とか文化財等については低い位置に示されていますけれども、私が社会教育に関わった中では、まちづくりは人づくりという言葉がキーワードのような時代がありました。それを含めてコミュニティの中でのお互いの希薄化、コロナ禍によりある程度制約が出てきた現状に愚痴を言いました。以上です。

委 員： こちらのグループはどちらかと言うと子育てとか教育とかですね、まず高校が赤磐市には白陵高校しかないなというところで、高校までは意外とお金がかからないけれども、そういった子育て世代の方が補助をもらえるような取り組みがあってもいいのかなというところですね。あとは、ここで結婚して子どもを産んでもらうという想定だけではなくて、子どもがたくさんいる方にこちらに移住してもらえるような、子どもが多ければ多いほど補助がもらえるとか、特典が多い、魅力的な赤磐市というのもよいのではということをお話しました。あと、交通に関しても話が出ましたが、交通というのはコストが結構かかりますので、赤磐市全域でまずは通信の方が早いと思いますので、普通にどこでもインターネットがスムーズに繋がるという状況が、これは教育の方にも今通信で高校も大学もありますし、あとはネットでの買い物とか情報収集とかなんでも結構できますので、交通

の整備をするよりも通信環境を整えるのもよいのではないかと、とそういう話がありました。

あと、赤磐市は今4万3千人ぐらいの人口ですが、土地的な要件も多分あるのですが、同じぐらいの規模の市町村との比較などがあっても面白いのかなと思います。例えば、先ほど移住の話をさせてもらいましたが、隣の和気町さんでは岡山県内からの移住でも支援金が出たりしますが、赤磐市は岡山県内だと出ないというような差異が結構あるなと思いますので、そういったところを1回見てもいいのかなと。人口統計も地区ごとの男女の人口は出ているのだけれども、例えば岡山市さんだったら5歳刻みの年齢ごとの数まで細かく出ている。そうしたら、すごく分析はしやすくなる。岡山市さんのホームページの人口は細かくて、そういうものも参考にしてもいいのかなという意見が出ました。

会 長： ひと通り意見をいただきまして、ありがとうございます。聞いておりますと、ひとつは時代の流れに制度が合わなくなってきたというのが大きいのではないかと思うのですが、それから、他の市町村との比較で何が問題なのかということをはっきりとしないとなかなか解決の方策というものが見えないのではないかと気がいたします。それから、赤磐市内のなかでも地区によってまちづくりの施策としてどういう違いがあるのか、山陽団地とネオポリスとの間の違いとかその辺りを明らかにしないと、市の中の相対的な問題が起こってくるのではないかと思います。これはいかがですか。

事務局： 山陽団地と桜が丘の人口動態が違う一番大きい要因は、山陽団地は県が都市計画の事業として造成を行いました。桜が丘の方はダイワハウスが民間で造成をしております。特に山陽団地においては造成をして10年以内に家を建てないといけないということで、一気に入居が行われました。ということですので、その当時に入居された方が同じ様に年齢を重ねられ、さらにそこで育った方が帰ってきて家を建てるとするような空地がない、というのが一番大きい原因です。桜が丘の方はものすごく大きい団地ですので、集中的に入居が進んだ地域もありますし、空き区画があった地域もあって、山陽団地に比べれば人口のバランスが取れているという状況が大きい原因であると考えております。他市町村との比較と県内の5歳刻みの人口データはございますので、またお示しさせていただきますが、相当ボリュームがありますので、またかいつまんでお示しさせていただきたいと思っております。

ベッドタウンであることは悪くないということであるとか、通勤の距離が離れると住居ごと移転してしまうといったことは、実際の傾向としてあるかと思いますので、そういった方々をいかに引き留めるか、また、子どもがたくさんいる方に移住してもらおうといったところも、どういった施策がよいかを話し合ってください次のステップがありますので、そういったところでも色々ご意見をいただければと思っております。先ほどのインターネットを強化すればいいのではないかとのご意見も、手段として盛り込んでいければと考えております。

他市町村との比較については、地勢であるとか特に人口規模で似た所は県内だけでなく全国的にあると思いますので、そういった所と比較して、良いところは見習って考えていきたいと思っております。簡単ですが、次の議事もございますので、以上とさせていただきます。

だきます。

(2) 総合計画で重点的に取り組む施策について

会 長： それでは、総合計画で重点的に取り組むべき施策について議論に入りたいと思います。

委員の皆さん方が特に関心をもっている施策でこれはというものを、総合計画の中に盛り込む施策として議論を進めていきたいと思います。それでは事務局から説明をいただいた後で議論をしていただきます。

事務局： まず、先ほど委員の皆様からいただいたご意見に関しましては、次回以降の議論につなげてまいりますために、まとめ資料ということで事務局の方から次回お示しさせていただきますと思います。それでは、本日2つ目の議題でございますが、基本構想の柱として、先ほどお示したこれらの項目が適切であるかということのご判断をいただきたいということで議題を出させていただきました。すでにご意見をいただいている事項と重複するところもございますが、重点的に取り組む施策について、審議会として採決をいただくために、改めてご説明がございます。あらかじめ送付させていただいた資料と別に、追加資料という形で、別の会議ではございますが、人口問題に特化した会議の報告ということで、追加させていただいております。

事務局： 事務局より資料No.4、追加資料について説明。（以下、略）

会 長： それでは、事務局からの説明に基づきまして、ご議論をいただけたらと思います。委員の皆様方にご自由に意見をいただけたらと思います。

委 員：（グループ内議論）

事務局： よろしいでしょうか。グループの中でのご議論も尽きないかと思っておりますが、本日最後の議題でございます、4つの柱として、公共交通、産業、子育て教育、住んでいて安心安全、この4つでよいか、いや、これは3つだろう、もしくは5つだろうということについてグループの中でもご意見が出たのかなと理解しております。本日は最終的に4つなら4つでよいということで採決という形をとらせていただきたいと思いますと思っております。先ほどのグループのご議論の中で、これは3つだろう、もしくは5つだろうというご意見があったかどうか、あるいはグループの中で4つではないという意見はなかったということでも結構ですので、一言ずつご発言をいただければと思っております。もし可能であれば、先ほどご発言をいただいた方以外でご発言をいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

委 員： 私が読んでいて思ったことですが、住んでいて安全安心なまちの中の子育て世代がマイホームを赤磐市で建てたいと思える取組とあるのですが、私たちの世代はもはやマイホームを建てない、ミニマムな暮らしをしているので、ちょっと時代錯誤な感じがいたしました。とはいえ、赤磐市で少し安いから家を建てる、家を買うという声は必要かなと思

います。

続いて、住んでいて安全安心なまちというのは非常に広い意味合いがあるかと思うのですが、これは当たり前としていただいて、この4つにわざわざ挙げなくてもいいのではと感じています。

委員： この4つの柱ですが、例えば左下の結婚に至る環境の整備とか安心して出産できる環境の整備、それぞれの矢印が上の方に向いていますけれども、1番わかりやすいのは、例えば1番上が住んでいて安全安心なまちということで、この下の4つの部分、これはそうだな、という風に思えるわけですが、後のことについてはそう思えないようなところもありますけれども。先ほどちょっと別な形でお話しさせてもらったのは、第2次赤磐市総合計画ということで冊子が作られているわけですが、これが第3次の総合計画ということで、例えば3年とか4年とかの間に冊子を作っていくという話だろうと思います。私も前回からこの審議会に入らせていただいているわけですが、事務局から話をお聞かせ願っているわけですが、ずっと流していかれるからどうもはっきりと理解ができないところもあるわけです。私の立場としても理解できるところもありますが、ひとつずつを皆さんできちんと作り上げていくのであれば、もう少し小さくした形で、より深いといえますか、そういった議論の方法でやっていってはどうかと思います。

委員： 今回の議題について、市民アンケートであるとかそれぞれ積み上げてきた中で苦心して柱をたてられているとは思いますが。これはグループ内で賛同が得られたわけではないのですが、1番左の公共交通の充実したまちというのは、市民アンケートであるとか若者のワークショップでも出た満足度の低い、関心のある項目だろうとは思いますが、こういった不便の解消というものが、計画の大きな柱になりうるのかというのが個人的な感想です。実際こんなに市民の方で関心があるということであれば、今一生懸命施策として取り組んで、この先を見据えた格好としてのテーマということになるのかと思っており、あとは、産業の活性化だとか、子育て環境だとか、安心安全というのは非常に大きいテーマで、柱たり得るかなと思っています。

会長： 公共交通は要らないのではないかという風な話になるとですね、これはどうなのかな、という気がいたします。これは基本構想ということで一番基本の柱になるところですので、この4つを柱として挙げることがどうなのかということで、ここで採決をいただくことでよろしいですか。

事務局： はい、一旦事務局から説明させていただきます。よいご意見をいただきまして、ありがとうございました。下の矢印から上に行くところでそもそも下の項目がどうなのかというご意見であるとか、それから委員から、説明が分かりにくいような所があるので、もう少し分かりやすいようにもっと深掘りをした方がいいのではないかとご意見もありましたので、今後会議を重ねていく中でももう少し内容を深掘りできるような進め方をさせていただきたいと思っています。それから、最後にご意見いただいた公共交通の関係ですが、市民の方から色々なご意見をいただいた中で、公共交通や福祉につきましてはDXも含めて全般にまたがることですので、当然施策の中で色々な展開もしてまいります。また、この下位計画の公共交通計画の方でも様々な施策を展開することとなっております。

すので、他に挙げております3つの柱からすると少し特化しすぎた内容であるというご指摘はおっしゃる通りであると思っております。

今回4つの方向性を示させていただいておりますが、前回計画では3本柱という形で進めさせていただいておりますので、今回も3つの柱に集約させていただいても構わないのかなと考えております。産業が活性化したまち、子育て環境・教育環境が整ったまちなどにも公共交通の内容は絡んでくるとおもいますので、4つの柱を3つに集約します。あとは表現方法について、マイホームというところが時代に合わないのではないかと考えた部分については、最終的に計画を作成する段階では変更させていただければと思います。

会 長： ここに盛り込まれた4つの柱の内容について、基本的な方向としては考えているということでしょうか。

事務局： はい。

会 長： それで表現の方は修正していくということですね。

事務局： はい、もちろんです。

会 長： それでは、少し時間が過ぎましたがこれで終了させていただきたいと思いますが、只今の内容でよろしいでしょうか。もしよろしいようでしたら、拍手を持って承認いただきたいと思います。

委 員：（拍手）

5 その他

会 長： ありがとうございます。それでは、事務局にお返ししたいと思います。

事務局： 総合計画の策定に向けた会議ということでございまして、慎重にご審議いただき、誠にありがとうございました。今回、グループでご意見をいただきましたが、ご発言をされてない方もおられるかと思いますが、今後も会を重ねていきますので、是非グループ協議をしていただく中でご発表の方をよろしくお願いしたいと思います。本日いただいたご意見を基にしまして、基本構想としての体系をこれから作ってまいりたいと思います。次回の会議日程につきましては、11月中には開催したいと考えておりますので、日程調整の程、よろしくお願いいたします。

6 閉会

事務局： それでは、長時間になりましたが、以上で第2回赤磐市まちづくり審議会を終了いたします。ありがとうございました。